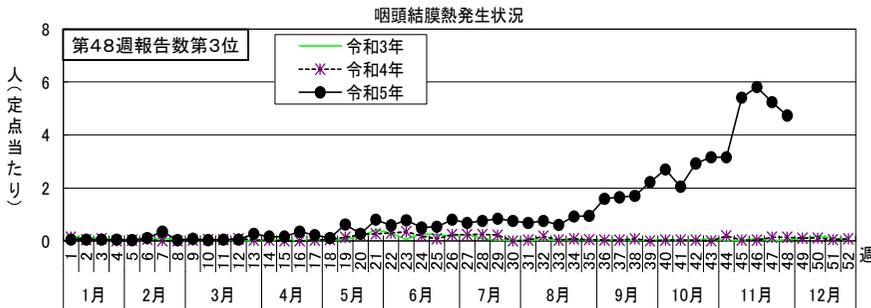
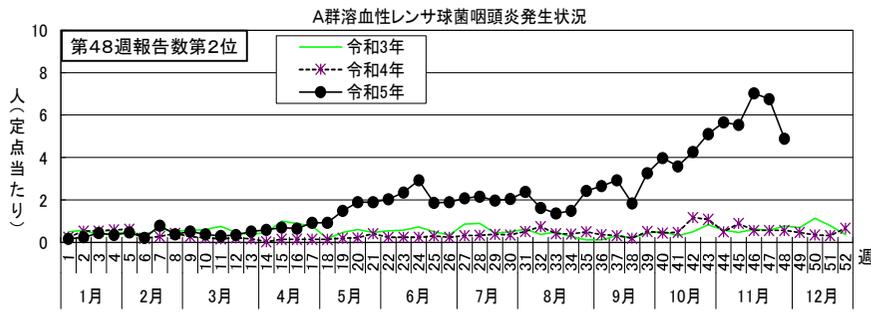
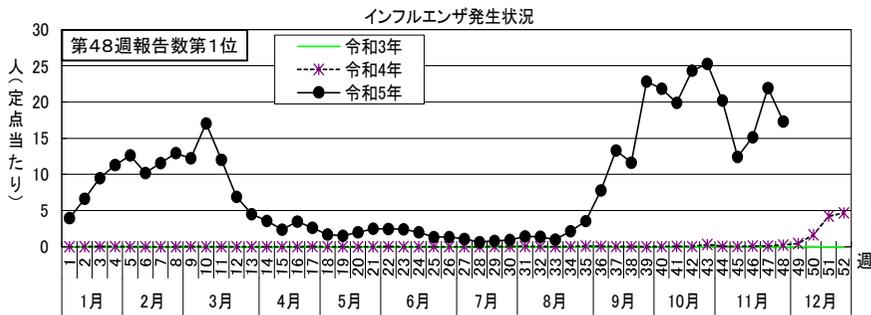


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年11月27日（月）～令和5年12月3日（日）〔令和5年第48週〕の感染症発生状況

第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 咽頭結膜熱でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は17.34人と前週（21.98人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.89人と前週（6.76人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は4.73人と前週（5.24人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

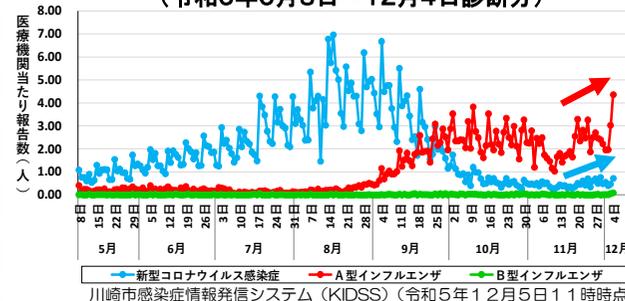


小児の呼吸器感染症の流行状況に御注意ください！

今年は、川崎市における様々な小児の呼吸器感染症の報告数が増加しています。インフルエンザやA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱は9月中旬から急激に報告数が増えており、インフルエンザの令和5年第48週（11月27日～12月3日）の定点当たり報告数は17.34人と、先週からやや減少したものの報告数の多い状況が続いています。また、現在は、新型コロナウイルス感染症も定点当たり2.10人と3週連続で増加しており、リアルタイムサーベイランスにおいても、11月下旬以降報告数の増加が続いています。

小児の呼吸器感染症は、市内だけでなく、国内及び海外においても報告数の増加がみられています。比較的身近な感染症であっても、免疫が不十分な乳児や基礎疾患を有する小児等では重症化することもありますので、周囲の流行状況には十分に御注意ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザのリアルタイムサーベイランス医療機関当たり報告数推移（令和5年5月8日～12月4日診断分）



中国北部における小児の呼吸器感染症の増加について

現在、小児の呼吸器感染症は、世界各地において報告数が増加しているといわれています。特に中国北部において、小児の呼吸器疾患の急増が問題となっていますが、現時点では未知の病原体によるものではなく、インフルエンザやマイコプラズマ、RSウイルス、新型コロナウイルス等既知の病原体の流行によるものと報告されています。

(厚生労働省検疫所 (FORTH) ホームページより)